



終戦の8月に寄せて

「いつになれば私たちは
 学ぶのだろう?」

古い有名な戦争反対の歌
 ♪花はどこへ行った

花はどこへ行ってしまったの?
 少女たちが摘んでいった。
 少女たちはどこへ行ったの?
 夫のところへ行った。
 夫たちはどこへ行ったの?
 みんな兵隊になった。
 兵隊たちはどこへ行ったの?
 みんな墓場へ行ってしまった。
 墓場はどうなったの?
 みんな花になった。
 その花たちはどこへ行ったの?
 少女たちが摘んで行った。

(原詞は英語。人権センターによる
 抜粋・意訳)

この歌詞の合間に「遠い昔のこ
 とだよな?」と「ああ、いつにな
 れば彼らは学ぶのだろう?」とい
 う言葉が何度も挿入されます。

歌詞の物語は最初に戻り、何度
 も巡ります。野に花が咲き、少女
 が摘み、大人になって結婚するけ
 れど、夫は兵隊になり死んでしま
 い墓場に埋められる。そこから花
 が咲き、次の世代の少女たちが摘
 みとつていき…。町のホームペー
 ジに連載しているコラムでもいく
 つか触れましたが、有名な反戦歌
 の多くに「なぜ戦争は繰り返され
 るのか?いつになれば戦争があつ
 てはならないことだと気づくの
 か?」という問いが込められてい
 ます。

東欧の侵略戦争が長期化し、世
 界の人々の暮らしに大きな影響が
 出ています。食糧、物資、エネル
 ギー云々。繋がった世界は負の出
 来事も共有します。国連が機能せ
 ず、各国の安全保障の議論は軍備
 拡張に大きく傾いています。しか
 し不思議なのは、ここ数年感染症
 ウイルスにあれば怯えた私たち
 が、より多くの人命を犠牲にする
 ための武器・兵器を、もっとたく

さん持ちましょう!という競争に
 走ろうとしていることです。銃、

ミサイル、核兵器は、マスクや手
 指の消毒、宴会の自粛では防げま
 せん。一応の平和の中で議論が深
 まり積み上げられてきた人間の権
 利ですが、ひとつひとつが些細な
 事として少しずつ削り取られてい
 くうちにやせ細り、独裁者を生み、
 最終的に戦争という形ですべての
 人権を失います。近くはナチスド
 イツのヒトラーが残した歴史が象
 徴的です。今や色褪せた白黒でな
 く、カラー映像で戦場を見ていま
 す。「遠い昔のこと」ではなくな
 りました。人権を守ることが役割
 の当センターとしては、誰もが当
 事者として戦争の悲惨を想い、繰
 り返さないための方策を尽くす意
 思を強くされることを願っていま
 す。



予 告

【第4回ふれあい人権講座】

■日時 8月30日(火)
 午後6時〜7時30分

■会場 日南町人権センター

■ドキュメンタリー映画視聴

「一人になる 医師小笠原登と
 ハンセン病強制隔離政策」

ハンセン病患者への差別と強制
 隔離が国策だった時代にその誤り
 を訴えた小笠原登医師のドキュメ
 ンタリーです。(時間帯を変えて
 再度上映するものです。)

8月の人権相談・行政相談

日時 8月19日(金)

午前9時〜正午

会場 子育て支援センター

